

東播 2023

この1年

【9月】

◆1～6月の救急出動が過去最多（1日） 加古川市、稲美町、播磨町を管轄する加古川市消防本部の救急出動件数が、2023年上半期（1～6月）に9234件（前年同期比6.2%増）に上り、上半期として過去最多を記録したことが分かった。

◆大学対抗カレーグランプリで**兵庫大**が2位（13日） 9大学対抗カレーグランプリが8月下旬に宝塚阪急であり、**兵庫大学**の「加古川和牛の牛すじカレー」が2日間の売り上げで2位となった。学生が調理・販売などを担い、テイクアウト販売の目標100食を上回る人気。

◆たかさご万灯祭、レトロな町を彩る（18日） 高砂市高砂町の古い町並みを光で包む「たかさご万灯祭」が開かれ、観光客らが夜の町歩きを満喫した。洋館「魚町倶楽部」や銀行の本店だった高砂商工会議所など、レトロな建物13カ所をライトアップし、路地約



6キロに明かりが連なった。

◆稲美町議選28年ぶり無投票（20日） 任期満了に伴う稲美町議選が告示された。定数14に対し、現職11、新人3の計14人の立候補にとどまり、無投票当選が決まった。

◆高砂市で初の空き家解体（22日） 高砂市北浜町西浜にある所有者がいない空き家について、市は、倒壊の恐れがあるとして解体作業を始めた。空き家対策特別措置法に基づく略式代執行で、同市では初めて。

9月 稲美町議選28年ぶり無投票 / 10月 県農ドッグフード発売

◆加古川の神社、社殿倒壊で男性死亡（27日） 加古川市神野町石守の旧愛宕神社の社殿が倒壊し、解体作業中だった近くの男性（60）が死亡した。秋祭り直前の惨事に、地区では急きょ祭りの中止を決めた。

◆高砂市民病院、移転新築の方針（30日） 高砂市の都倉達殊市長は、建物の法定耐用年数が2029年に迫る高砂市民病院について移転建て替えの方針を表明した。26年度末に市の赤字補填額が複数年平均見通しで4億円程度に収まらない場合は直営を見直す。

【10月】

◆みとろフルーツパークのリニューアル（6日） リニューアル中の農業公園「みとろフルーツパーク」（加古川市上荘町見土呂）が第2次オープンし、ガラスハウスが開業。地場産野菜



を使うレストランや植物ショップも。

◆県農ドッグフード販売開始（14日） 県立農業高校動物科学科の生徒たちが、害獣として捕獲された鹿の肉と廃棄野菜で作った「県農オンリーワンドッグフード」の販売を始めた。

◆加古川河川敷再整備、飲食施設を2028年に開業へ（18日） JR加古川駅近くの加古川河川敷の再整備計画について、加古川市は、堤防上に設ける飲食施設の開業時期を、2028年4月とする方針を固めた。

◆加古川市連合婦人会が74年の歴史刻み、解散へ（31日） 加古川市連合婦人会が、2024年3月末で解散する。奉仕活動や消費者問題の学習・啓発、子育て支援などに取り組み、女性の社会参画に貢献したが、共働き世帯の増加を受け、近年は新規入会者が減少。かつて15地区が加盟していた単位婦人会は6地区に減り、会員の高齢化も進んでいた。

（かっこ内は掲載日。肩書や年齢は掲載当時）